

助成対象事業成果概要報告書(公表用)

制度名	チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	株式会社 SOBA プロジェクト
助成対象事業者名	代表取締役 乾 和志
助成金の額	9,495千円

【助成対象事業の全般について】

①	助成対象事業の概要	ろう者のニーズにそった複数情報伝達モード(画像・文字字幕・筆談機能・アイコン・シンボルマーク、地図、住所、ビジュアル情報等)を備えたユニバーサルな“電話リレーサービス”(ろう者と聴者を手話通訳者を介してインターネットでつなぐサービス)を提供するとともに、一般社会に認知されるために、その利用者を独居老人の見守りや国内のろう者に限らないグローバルなシステムとしてサービスの提供を行うことが目的。
②	助成対象事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> - 第一次試作版の完成 映像・音声を使ったリアルタイムな遠隔地同士のリレーサービス - 営業的活動 実証実験やデモを通じた本リレーサービスの拡販施策

【平成25年度実施部分について】

③	助成対象事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> - 第一次試作版の完成 従来までに PC にてろう者・手話通訳者・聴者がリアルタイムに対話できる仕組みはあったが、助成対象事業として Android、iOS に対応した上に、対話のための補助的な仕組みを構築。 - 営業的活動 本リレーサービスのデモや実証実験を行い、拡販につなげるとともに、潜在ユーザからのヒアリングを行い、開発に反映させる。
④	助成対象事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> - 第一次試作版を完成させることができた。Android および iOS にて、ろう者・聴者・手話通訳者の三者が、映像・音声を使って対話ができるようになった。また、ホワイトボードやスライドなど、意思疎通を図るための補助的な仕組みを組み込むことができた。 - 営業的活動 多数の潜在的顧客への訪問・デモ・実証実験を行い、本リレーサービスへの理解が得られたとともに、本サービスに対する意見や改善案を収集することができた。 <p>次年度には本リレーサービスの改善を行い、実際にユーザが簡単に利用可能となる状態を構築する。また、本サービスは限定的に無償提供することを目指しているため、そのための環境構築を行う。営業的活動としては、複数箇所へのデモ機の設置など、販促活動を精力的に行う。</p>

⑤	補足説明事項	実際に、本サービスを利用して、ろう者・聴者・手話通訳者で対話を行う実験を行ったが、お互いに非常に理解が進み、本サービスが有用であることが確認できた。逆に、改善しなければならない点なども明らかとなったため、今後も実験・デモと開発を有機的に結合させながら本事業を進めていく予定である。
---	--------	--